平成 27 年 1 月 15 日発行
No.277

Shining シャイニング

発行元：社会福祉法人 拓く
TEL　0942-27-2039
FAX　0942-27-2086
http://h-polepole.com

明けましておめでとうございます　～全職員一丸となって法人を創っていきます～

今号よりシャイニングの紙面をリニューアルしました。さて、当法人も規模が大きくなり、安武町の「出会いの場ポレポレ」やグループホーム「チェムチェム」「ニュンバ」「三原さん家」を始め、御井町の「夢工房」やグループホーム「御井あんだんて」・「御井の家」、上津町の「惣菜処ぽれぽれ」、南町のグループホーム「南の家ほっと」、中央町のグループホーム「こりんずハウス」、江南中・城南中・筑邦西中の「タイムケア」と事業を拡げています。その中で、どんなことを考え、どう実践しているのか、紙面を通して管理者を中心に皆さんにお知らせしていきたいと思います。新たな事業計画等も逐次、掲載していきます。今後の５年・10 年先、私達を取り巻く環境は色んな意味で大きく変わっていくと思います。全職員協力のもと、法人「拓く」を創っていきますので宜しくお願いします。（理事長　野田 文子）

どんな状態でも地域で暮らせるようになるために　～「ピンピンコロリ」ではなく、「人のお世話になって死ぬ」～

要介護５の父がわが家に来て、２ヶ月以上が経ちました。食事や排泄の世話、福祉用具等の環境整備、金銭管理などお世話をすることはたくさんあります。私もいずれ、「誰かのお世話になって死んでいくのだろう」と思う毎日です。多くの人は「ピンピンコロリでは死ねない。人の世話にならないと死ねない」ということを実感しています。誰もがそのことを自覚して暮らしていけば、介護保険料を払うのは惜しくないでしょうし、重度心身障害者への厚い支援も自分がそうなった時に安心だと思えるようになるでしょう。そこで、医療依存度の高い人は、療養介護型の施設や病院で暮らすしかないという壁を突き破りたいと思っています。当法人は痰吸引や胃ろう、人工呼吸器が必要になっても暮らしていけるような体制づくりのために知識や技術の習得を急ピッチで始めています。昨年 12 月より医療器具を揃え、医療依存度の高い人のヘルパー支援を実施し、３月 14 日(土)・15 日（日）には喀痰吸引の第３号研修を当法人で実施します。

今後、多くの皆さんと一緒に「人のお世話になる」ための準備を進めたいと思っています。今年も宜しくお願い申し上げます。

（常務理事　馬場 篤子）

（１月５日 新年お楽しみ会）

出会いの場 ポレポレ

今年、出会いの場ポレポレに通所されている利用者のお一人が成人を迎えられ、ささやかですが、出会いの場ポレポレの利用者・職員で成人のお祝い会を催しました。

お祝い会の中で、その方が生まれた時から成人を迎えるまでの写真の上映会があり、いろいろな人との出会いの中で成長しながらその人らしく生きてこられ、今があるのだと感じ、胸が熱くなりました。

それは、今ここに存在している皆に言えることであって、一人ひとりがかけがえのない大事な存在であることを、この成人のお祝い会を通してあらためて実感しました。

先日、青野裕美氏と清水明彦氏の講演会があり、「利用者一人ひとりの思いと向きあう」ということを、あらためて考えさせられました。本当の意味で「利用者一人ひとりの思いと向きあう」ということを今までしてきたのだろうかと・・・。

一人ひとりがその人らしく輝けるよう「利用者一人ひとりの思いと向きあう」ことをあらためて考えるスタートの年にしたいと思います。

（管理者　鹿子島 功子）

惣菜処 ぽれぽれ

明けましておめでとうございます。忙しいクリスマス、年末が終わり無事に年を越すことが出来ました。

クリスマスはオードブルやチキンセット、エフコープ店頭で揚げたてチキンの販売、31 日には、鉢盛やお節、海老天の店頭販売などを行い、足を運んでいただいたお客さまも多く、大変うれしく思いました。

また、昨年は管理栄養士が作成するメニューによるグループホームへの配食を始めました。新しい取り組みのため各ホームの方には、ご迷惑をおかけする事もありましたが、安心、安全、親切な配食ができるように、今後もメンバー、スタッフ共に協力し合い取り組んでまいります。

２月には恵方巻き、３月は春の行楽弁当などでまた忙しくなりそうですが、今年も、惣菜処ぽれぽれをよろしくお願いいたします。

（管理者　山下 剛）

夢工房

夢工房は、３年前から初出勤日に、全員で高良大社へ初詣に行っています。今年は４日、５日に、一人ひとりの健康とＹＵＭＥカフェの繁盛を祈願してきました。登山が可能な方は、山の中腹からですが、１歩１歩、石段をのぼり、帰りは、１ 時間半かけて、夢工房まで歩いて帰ってきました。

高良大社では、お参りするために参列に並ぼうとしましたが、段差があるため車椅子が上がらず、他の職員が来るのを待っていたところ、「何かお手伝いすることはありませんか」「抱えましょうか」と何人もの方が声をかけてくれました。

私は、その一言がとてもうれしく、メンバーと一緒に喜びました。障がい者が社会の中に出て、あたりまえに生活するためには、小さな協力でいいから一声が大切だと感じました。

これからも、夢工房とＹＵＭＥカフェの活動を広めていき、誰もが、住みやすい御井町になるように、私たちも地域の人達と関わっていきたいと思います。

（管理者　山本 真理子）